

医療の現場 届け400回



茂松茂人・府医師会長 連載と活動へ思い

毎週火曜日掲載の「ご近所のお医者さん」が400回を突破した(1月24日付)。
スタートは10年前の2007年4月3日。府医師会所属のお医者さんたちが、患者とのふれあいや、現場で感じたことなどをつづってきた。これからも回を重ねていく。折しも今年には府医師会の創立70周年の節目にもあたる。昨年6月に会長に就任した茂松茂人さん(64)に、連載への思いと府医師会の活動について語っていただいた。

校医から災害救急まで

——第一回は、中川やよい医師(大阪市旭区、中川医院院長、当時広報担当理事)が執筆した「患者さん本位の医療」。以来10年で400回。感慨を。
茂松 先生方に協力いただき、その時々医療のトピックスを書いてもらってきました。府医師会が取り組む活動の中で、外部への広報活動の象徴。読んでいただくとみなさまのプラスになっていければうれしいです。

——茂松会長が執筆されたのは、07年4月17日の「社

会的背景や心理面」(第3回)を皮切りに計4回。直近では会長就任直後の16年6月28日の「国民皆保険制度」(第377回)でした。ご自身は、文章を書かれるのはお好きですか？

茂松 話すことは大好きですが、書くことは苦手。苦労しています。整形外科医ですので、高齢者の医療や腰痛・肩こりといった話題は書きやすいです。

【聞き手・関野正】
——会員の先生方の原稿で心に残っているものは？
茂松 いずれも自分の担当している診療科や現場に関連したことを書いておられ、興味深いです。その中で、益田元子先生(大阪府中央区、益田クリニック院長)の「学校医の願い」(07年7月3日第13回)と「学校健診での脱衣」(10年6月1日第123回)は大切なテーマでした。学校での健康診断時に脱衣したがる生徒がいて診断に差し支えがあるということ、校医の立場から説明しておられます。あとは、私自身が整形外科医なので口

モテティブシンドロームの話題が取り上げられていたら注目して読みます。また、府医師会の役員として初めて担当した分野が救急・災害医療でしたので、災害をテーマにした原稿も関心を持っています。
——巨大災害時には地域の医療機関の役割が一層高まります。
茂松 医療救護活動の訓練など、災害への対応に取り組んでいます。いざという時に動けるのか、また行政とどのように連携できるのかも重要です。幸い大阪は近年大災害に遭っていませんが、府医師会は応援に出ることが多いです。東日本

大震災や熊本地震の被災地にも出向きました。
——超高齢社会です。認知症の患者さんとその家族、地域のために医師会が果たすべき役割は？
茂松 2025年には、認知症患者700万人時代を迎えると言われています。国は各地域に「認知症サポーター」を配置して、専門の医療機関である「認知症疾患医療センター」を整備し、地域のかかりつけ医と連携する態勢の構築を進めています。最初に患者さんと接するかかりつけ医の役割は重要です。府医師会では行政とも連携して

「社会に迷惑を掛けている」という意識を持ってもらえればなりません。我々が声を上げると「医師が自分の仕事のために言っているのではないか」と思われることがあります。が、国民医療を守り、充実させることは、府民ひいては多くの国民の皆さんのためになります。これからご理解をいただく努力を続けていきたいと思っております。そうした課題をつきつけられる年で、医師会はさらに一致団結しなければなりません。

しげまつ・しげと 大阪医科大学卒。同大学整形外科の助手を務め、1990年に茨木市に茂松整形外科を開業した。2010年から府医師会副会長、昨年6月に会長に就任した。箕面市在住。

「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を開いたりしています。
——今年11月、府医師会は創立70周年を迎えます。これからの役割についてお考えを。
茂松 日本の国民皆保険制度は、世界に誇れる優れた仕組みです。しかし、財政が圧迫されているとして、医療費を削減しようという政策が進められているのは大きな問題です。医療費を削るのは、命を削るのと同じ意味だからです。高齢になってもいきいきと生活できるシステムは大切です。多くの高齢者は、少ない負担で医療を受けられることに

何を望むか、知るのが大切



患者さん本位の医療
「患者さん本位の医療」は、医師が患者さんの立場から、患者さんのニーズに応じた医療を提供することを指します。これは、医師の役割を単に診断と治療から、患者さんの生活の質の向上や予防医療まで広げることです。

07年4月3日付。これが初回の紙面

大阪府医師会

1947年11月に発足。2013年4月に一般社団法人に移行した。会員約1万7500人。医師会館は、大阪市天王寺区上本町2の1の22(06・6768・7000)。
ロコモティブシンドローム
運動器(骨、関節、筋肉など)が病

気や加齢によって機能低下し、転倒や骨折をしやすい

なり、寝たきりになるなど介護が必要となる危険性の高い状態を指す。予防策として、運動やバランスの良い食事の大切さなどが指摘されている。日本整形外科学会が提唱し、略して「ロコモ」。日本語では「運動器症候群」。